

放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート
テーマ①発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援
【クラブ】（ 風の子クラブ ）
【名 前】（ 川原 郁美 ）

今回の研修では、私が想像していたよりも専門的に発達障害のことについて、学ぶことができました。学生時代にも授業で取り扱っていたので、なんとなく知識はあるつもりでしたが、発達障害の捉え方も、障害の名称も変化していて、新しい知識を取り入れてアップデートしていくことは、とても必要だと思いました。

午前の講義で印象的だったことは、発達障害の捉え方についてです。「誰にでもなんらかの発達特性はある」「診断まではいかないけれど発達特性が強く出ている層の人もある」という捉え方は、多様な子どもたちと生活し、保育をしていくうえで、大切なことだと思いました。講義の中でおこなった“セルフチェック”を試してみても、私に当てはまるものもあるし、いろいろな人に当てはまるだろうという項目がたくさんありました。『障害』という線引きをするのではなく、個々人の特性と捉えた柔軟な保育をしていきたいと思いました。

午後のグループワークでは、講師の先生の事例をもとに検討しました。ブランコを譲れなくて、とっさに手も出してしまう男の子。この子はなぜ手を出してしまったのか？イライラしてしまったのか？を話し合い、どうかかわってあげばいいのかを考えました。男の子に対して、どうしたらブランコを譲れるのか聞いてみたり、男の子がどうしたいのかを聞いてみたりするという、男の子の行動を否定するのではない、前向きな意見がありました。こう考える事こそが、柔軟な保育につながることだと思いました。

今回の講義を通して学んだこと、グループワークで得たいろいろな考え方を日常の保育に取り入れて、より子どもを第一に考えて生活をしていきたいと思えます。